

ワークシフト・ソリューションズ
代表取締役社長 荒木成則

あなたのオフィスには何人の外国人従業員がいますか。こう問われて「0人」と答える企業は少なくないのではないか。グローバル化が進んでも、日本人だけで働く日本企業はまだ多いように感じる。少子高齢化に伴い日本で働く外国人の存在は大変貴重だ。まずは外国人と働いてみてはどうだろう。一歩踏み出すことを勧めたい。

近ごろは飲食店やコンビニエンスストアで外国人の従業員を見かけることが増えた。それもそのはず、10年前に比べれば、外国人労働者は約2・6倍の約128万人に増えたと聞く。コンビニやスーパーをはじめとする小売業や食料品などの製造業は、外国人がいなければ成り立たない店や工場もあるようだ。

外国人と働いてみませんか

ただ生産年齢人口に占める割合は2%ほど。つまり多くの日本人は、外国人とともに働く機会を持っていないのだ。今後ビジネスの対象は大きく変わる可能性が高い。モノやサービスを「売る」対象が日本人だけでは、企業の成長は期待しにくい。多くの日本企業が外国人の活用に踏み切っていないのは残念だ。

「日本にいなながら気軽に外国人と仕事のできる環境を提供したい」。私がワークシフトを立ち上げた背景にはそんな思いもある。日本で学び、働いた外国人が、母国への帰国で日本と関係が切れるのはもったいない。オンライン上で働く海外のクラウドワーカーと日本企業を結び、海外進出やインバウンド対策などの仕事をネット経由で依頼できるビジネスを立ち上げた。フランスコスモスやJTB、九州電力なども協力し、外国

人が日本企業とネット上で働ける環境を整えている。

会社を始めて驚いたことが3つある。一つは副業や兼業としてネットで働く人材が多いこと。二つ目は新興国中心に日本企業への信頼感が高いこと。最後はネットで働く人の優秀さだ。実績を積み、日本の大手企業に信頼されている個人も少なくない。できない仕事を「できる」と言う外国人もいるが、過去の経歴や仕事の評価からその人の実力は測れる。

言葉の壁や文化の違いに二の足を踏むより、外国人と働いてみてはどうか。ビジネスチャンスが自然と海外に広がる企業も出てこよう。外国人と一緒に働くことで得られる新たな気付きは今後の事業展開の弾みになる。企業での取り組みを通じて、世界における日本の立ち位置を確認し、日本の未来につなげたい。

当欄は投稿や寄稿を通じて読者の参考になる意見を紹介します。〒100-8066東京都千代田区大手町1-3-7日本経済新聞社東京本社「私見卓見」係またはkaisetsu@nex.nikkei.comまで。原則1000字程度。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記。添付ファイルはご遠慮下さい。趣旨は変えずに手を加えることがあります。電子版にも掲載します。